

会 議 録

会議の名称	第1回J R行田駅前広場周辺再整備基本計画検討委員会
開催日時	平成26年10月 2日(木) 開会：10時00分 ・ 閉会：12時10分
開催場所	行田市産業文化会館2階 2A会議室
出席者(委員)氏名	田尻 要、酒井建二、小川雅以、櫛引浩士、柳澤 守、酒井敦司 清水直人、伊東絵里子、富岡 誠
欠席者(委員)氏名	なし
事務局等	小林都市整備部長、石川都市計画課長、加藤主幹、金子(利)主幹、 金子(政)主査、飯塚主任、青山主任 大日本コンサルタント(株)：青木、古谷、木下
会議内容	(1) J R行田駅前広場周辺再整備基本計画策定について (2)対象地区の現状と課題
会議資料	(資料名・概要等) ・ 次第 ・ J R行田駅前広場周辺再整備基本計画検討委員会設置要綱 ・ 資料1 基本計画策定の概要、現状と課題整理 ・ 参考資料-1 駅前広場利用実態調査結果 ・ 参考資料-2 駅利用者アンケート調査結果 ・ 参考資料-3 観光来訪者アンケート調査結果 ・ 参考資料-4 地域住民ニーズ調査結果 ・ 参考資料-5 土地所有者意向調査結果 ・ 対象地区の都市基盤等の整備状況図 ・ 会議傍聴要領 ・ 行田市都市計画マスタープラン(概要版) ・ 行田らしいまち並みづくりとにぎわい創出基本計画(概要版)
その他必要事項	傍聴者なし

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
<p>田尻委員長</p> <p>事務局</p> <p>柳澤委員</p> <p>事務局（小林部長）</p> <p>事務局（金子主査）</p>	<p>開会の宣言（加藤主幹）</p> <p>委嘱状交付</p> <p>市長あいさつ</p> <p>委員長及び副委員長の互選（田尻委員が委員長に、酒井建二委員が副委員長に選任される）</p> <p>委員長及び副委員長あいさつ</p> <p>（議事）</p> <p>議題(1) J R 行田駅前広場周辺再整備基本計画策定について、事務局からの説明を求める。</p> <p>（資料 1 の 3 頁から 8 頁に基づき、J R 行田駅前広場周辺再整備基本計画策定についての概要を説明）</p> <p>対象地区の都市基盤等の整備状況図について、鴻巣市との行政界が入り組んでいる地域を検討の対象にはしないか。また、水路等の配置等からも行政界を直線にすることも検討した方が良いのではないか。</p> <p>鴻巣市の旧吹上町との行政界については、現在、鴻巣市側で区画整理事業を行っており、道路整備・下水道などの整備を鴻巣市と調整しながら行っている。今回の基本計画策定委員会の中では行政界の変更等については検討しない。過去に行政界を直線にするという議論があったが、区画整備事業との絡みがあり調整できなかった経緯がある。機能的に行政界の住民にも支障のないよう行っていきたい。</p> <p>鴻巣市側の区画整理事業を行っている国道 17 号沿道では、すでに商業サービス施設が立地している。また、周辺の住居系の土地利用地域では、徐々に住宅が建ち並んできており、J R 行田駅を利用することが想定されるため、駅前広場の容量算出において考慮していく。</p>

酒井(建)委員	対象地区の都市基盤等の整備状況図や土地利用図について、対象地区周辺の状況も分かるよう範囲を広げてもらえないか。
事務局（金子主査）	隣接する鴻巣市と熊谷市の状況については、議事録等と一緒に周辺の土地利用の状況や都市計画図を配布したい。
小川委員	行田駅について、行田市民や周辺市町からの利用状況や、通勤通学、買い物、その他行事への参加など利用する際の利用目的、利用者数の推移などの概要を教えてください。
事務局（金子主査）	<p>行田市内にはJR高崎線と秩父鉄道が走っている。都市計画マスタープランの策定にあたり、地域を4ブロックに分けて、地域別懇談会を開催しながら基本構想を作成した。</p> <p>懇談会において、西部地域の方々はJR行田駅の利用が多いとのことであった。北部地域の方は秩父鉄道かJR熊谷駅を利用することが多く、中心部の区域では朝日バスが運行しているため吹上駅を利用、南東部のさきたま古墳・古代蓮の里周辺地域の方は、武蔵水路沿いに北鴻巣駅を利用されている方が多い。</p> <p>吹上駅と市街地を結ぶ軸、北鴻巣駅から観光資源を結ぶ軸、JR行田駅から市街地を結ぶ軸など、市単独にとらわれず検討を進めていきたい。また、朝日バスの運行については、運行補助等を活用しネットワークを守っていく予定である。</p> <p>都市計画マスタープラン作成時、JR行田駅前についての関心は非常に高かった。市民の方の駅前が寂しいというご意見があったことに加え、市としても集約連携型の都市構造の形成に向けて行田駅の活用が必要であると考えている。ただ再整備するだけでなく、市民の皆さまに利用していただき、守ってもらいながら、JR行田駅が南の玄関口・顔として機能するよう位置づけたい。</p> <p>JR行田駅の利用状況は、駅別年間乗客数が平成18年度で260万人、平成23年度で250万人弱と、やや減少している。1日の利用者数では平成18年度で7168人、平成23年度で6811人であった。鴻巣市の区画整理事業が進むことで、今後</p>

小川委員	<p>利用者が増加する可能性はあると考えている。</p>
事務局（金子主査）	<p>対象地区に清水町や門井町が入っていないのはなぜか。もう少し範囲を広げて検討したほうがよいのではないか。また、岩崎電気について、今現在、これから先、市としてどう考えているのか。</p> <p>対象地区については、清水町や門井町についても検討したが、特に駐車場等が多く低未利用地となっている壺里山町について、市有地の有効活用も含め短期的に取り組んでいくエリアとして決定した。</p>
事務局（石川課長）	<p>まちづくりにおいては、当然面的な検討が必要である。都市計画マスタープランでは太井地区も含め、J R 行田駅周辺を都市拠点として位置づけている。市のにぎわいを作るためには、J R 行田駅周辺の都市拠点と中心市街地の都市拠点を繋いで活性を図る必要がある。</p> <p>また、「行田らしいまち並みづくりとにぎわい創出基本計画」としてもワークショップを開催しており、行田のまちの活性化や景観・まちづくりの推進について議論し、次年度には事業化していきたいと考えている。</p> <p>J R 行田駅周辺や中心市街地は人口密度が高く、さらに密度を高めるため、市民の皆さまにもまちづくりへ参加していただきながら、行田として特徴あるまちづくりを進めていきたい。</p> <p>清水町については、ほぼ区画整理事業が終了しており、鉄道により中心市街地までの軸から分断された地域であることから除外した。岩崎電気については、壺里山町全体を考える中で、面積として占める割合が高く、多くの従業員がJ R 行田駅を利用していることもあり、対象とした。</p> <p>また、J R 行田駅周辺の事業者として、岩崎電気や東京電力、埼玉縣信用金庫にすでにヒアリングを行ったが、岩崎電気は現状の区域で事業を拡大する予定であり、移転等は検討していないとのことであった。各事業者にはワークショップにも参加していた</p>

小川委員	<p>だき、一緒に周辺整備を考えていただきたいとお願いしている。</p> <p>市としての基本的な考え方を岩崎電気に申し入れはしたのか。</p> <p>市として要望は今まで一切していないのか。</p>
事務局（石川課長）	<p>昔に岩崎電気に移転の話があったときにも聞いているが、市の方針として、再開発を行うため移転して欲しい等の要望は一切したことはない。ワークショップや検討委員会の中で、どうしても岩崎電気の土地が必要という結論が出れば申し入れをしていきたいと思っている。</p>
小川委員	<p>J R 行田駅の東西に 2 ケ所の踏切があるが、利用しづらい。清水町には 2 0 1 4 年 1 月現在で 7 7 9 人の市民が住んでいる。熊谷駅の南側から鉄道に沿って、整備された道路を活かした施策は検討していないか。</p>
事務局（金子主査）	<p>ご意見いただいた踏切は、クランクになっており、行田市内で唯一清水町と壺里山地区を結ぶ道路であり、行田市としてはこの踏切を活用したいと考えている。交通安全対策に加えて、クランクになっていて非常に使いづらい踏切であるため、現在、所管部署で対策を検討している。</p>
小川委員	<p>その結論はいつごろ出るのか。</p>
事務局（加藤主幹）	<p>現在土地所有者と交渉中であり、その交渉が済めば 2 ～ 3 年のうちに解消できると報告を受けている。踏切は狭いが、前後をスムーズに通行できるように、清水町側から壺里山町側へ右折禁止にする、標識を設置するなど、安全性に十分配慮して検討を進めていきたい。</p>
小川委員	<p>安全性に配慮する方法として、踏切を使用しない方法が何かあるのではないかと思ひ発言した。どのような形にしたいのかという結論を早めに出して欲しい。</p>
柳澤委員	<p>踏切についてだが、以前は現在より狭く、地元・行政の大変な苦勞のもと、J R と交渉し、なんとか 1 m ほど拡張していただいた経緯がある。熊谷市側にある踏切も含め、短い区間に踏切がい</p>

事務局（金子主査）	<p>くつもあることはJRが難色を示す問題であると思うが、鴻巣市の区画整理事業と併せて、長期的に検討していただきたい。</p> <p>JRでは基本的に、現状の踏切面積の総量を増やすことは出来ず、例えば2つの踏切を1つに集約して広げるなどといった方法を取る必要があり、踏切の拡幅は現時点で非常に困難である。</p> <p>区画整理事業についても、鴻巣市、行田市の関連部署、JRも含めて市民の利便性向上に向けて調整を行っている。</p>
酒井(建)委員	<p>壺里山町の区画整備事業が完了してから約50年が経過しているが、いま謳われている「魅力的で機能的な駅前を作る」ことができなかった。地主の意向もあったかと思うが、ニーズも十分でなかったのではないか。そういった要因を整理する必要があるのではないか。区画整理後の行政内での検討経緯や市街化の進捗過程について整理していただきたい。第一次区画整理事業は駅の東側も西側も一体的に行ったのか。</p>
事務局（金子主査）	<p>区画整理事業は別々に行われた。ご意見いただいた通り、これまでの整備における問題点を整理することは重要である。</p> <p>一つの要因として、区画整理事業が完了したあとに壺里山公園が開設したことが挙げられる。過去に市として駅前を整備しようとしたことがあったが、計画を進める上で壺里山公園の都市計画決定がブレーキになったことが大きな課題であった。</p> <p>今回の本計画を策定するにあたり、県への相談を行った中では、当時都市計画決定をした公園の機能が違う場所で充足されれば、決定の変更は可能との回答をいただいた。公園の移設も含め、本委員会で検討していきたい。</p> <p>もう一つの要因としては、用途地域を定め誘導しているが、実際の土地利用については市民の意向に左右されることが挙げられる。今回、土地利用について住民の意向調査も行っており、ニーズも踏まえた誘導方策を検討していきたい。</p>
田尻委員長	<p>今後の対策検討も重要であるが、意見があったようにこれまで</p>

事務局（金子主査）	<p>の経緯を整理する必要があると思う。これまでの経緯を整理していただくことは可能か。</p> <p>次回委員会までに整理させていただく。</p>
田尻委員長	<p>議題(2)対象地区の現状と課題について、事務局からの説明を求め。</p>
事務局	<p>(資料1の9頁から23頁に基づき、対象地区の現状と課題についてのとりまとめ結果を説明)</p>
酒井(建)委員	<p>時間的な制約があるため、本議題については次回検討してはどうか。</p>
事務局（金子主査）	<p>本委員会は全4回を検討しているが、回数を増やすことも含め委員長と相談させていただきたい。</p>
柳澤委員	<p>前議事にあったように、対象地区の過去の経緯等の整理に加え、鴻巣市の区画整理事業など周辺地域の現状も踏まえて検討した方が良いのではないか。委員会の回数増加も含め検討していただきたい。</p>
田尻委員長	<p>委員会の回数増加について、事務局と相談して検討していく。</p>
酒井(敦)委員	<p>私は行田市民ではなく、今回の委員会での議論で地域の実情が分かり大変良かった。資料1の3頁に都市計画マスタープランの方針が明記されているが、「行田駅」として何に特化した駅を目指すのかが不明確ではないか。隣接駅の強みを踏まえ、行田駅としては何を売りにするのかを検討する必要があるのではないか。</p> <p>「南の玄関口」とあるが、行田駅は間違いなく県内外からの利用があり、「歴史」がテーマではないかと感じている。北鴻巣駅には緑道が整備され歩くのに良いなど、差別化を図る必要があるのではないか。</p>
田尻委員長	<p>ご意見いただいた通り、周辺駅の情報も含め、事務局には整理していただきたい。</p>

事務局	<p>(その他)</p> <p>次回は12月を予定していたが、議論の中であった通り、資料の配布ではなく、委員会の回数増加も含めて委員長と相談し、再度日程調整を行う。</p> <p>閉会の宣言（加藤主幹）</p>
-----	---